

◎全国で4万7000人が挑戦＝第3回検定を実施

正しい日本語を身に付けてもらうことを狙いとする「日本語検定」（略称・語検）も今年度で2年目に入りました。平成20年度の第1回（通算第3回）の「語検」が、6月20、21の両日、全国115都市、124会場で全国一斉に行われました。活発化した梅雨前線の影響で、九州などで局地的に激しい雨が降るなど悪天候となりましたが、全国で昨年実施された2回分の合計を上回る約4万7000人（申込者数）が受検しました。

「語検」は、敬語や文法、語彙（ごい）、表記など6領域について、正しく使う能力を測るものです。1級から6級まであり、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果は、7月下旬にホームページで速報が掲載され、その後個人カルテや認定証が発送されます。

今回の受検申込者数は、1級（社会人上級）735人、2級（社会人中級・大学卒業程度）6190人、3級（社会人初級・高校卒業程度）1万4552人、4級（中学校卒業程度）1万1583人、5級（小学校卒業程度）7376人、6級（小学校4～5年程度）6754人。最年長者は89歳、最年少者は8歳でした。

◇「自分のレベルアップを図りたい」…＝埼玉会場



埼玉県内では、さいたま市や川越市など5会場で415人が個人受検しました。さいたま市内の埼玉大の会場では、午前の個人受検の検定開始1時間ほど前には一番乗りの受検者が到着。その後、梅雨空とはいえ雲が切れて時折日差しが照る中、受検者が次第に集まり午後と合わせて108人が受検しました。

午前の2級と午後の3級を併願したという31歳の主婦は、「子育てが一段落したので、社会復帰しようと思い、自分自身のレベルアップを図るため受検した」「外国人が増えているので、やはり日本人としてはきちんとした日本語を話せるようにして誇りを保ちたい」などと受検のきっかけを話しました。

「日本語に興味があるし、高校受験にも役立つ」と6級を受検した中1の女子生徒は、事前に問題集も勉強。「試験はやさしく、簡単だった。合格すれば、さらに上級を目指したい」と自信をのぞかせました。

小3の女儿が6級を受検した母親は「子どもの教育には、日本語を正しく使えると言うことが重要」と話し、女儿は5～6回過去問題に目を通したという。「次は子どもと一緒に親子受検をしたい」と意気込んでいました。

◇町が呼び掛け受検＝兵庫県播磨町

一方、明石市に隣接する兵庫県播磨町では、同町が町民に正しい日本語への関心を持ってもらうために、広報紙などを通じて「家族でチャレンジ」と団体受検を呼び掛け、52人がコミュニケーションセンターで受検しました。

同町では、読書活動とともに、地域ぐるみで日本語に対する関心を高め、地域の教育力の向上に役立てることを期待しており、担当者は「親子受検の人もだいぶおり、9～69歳の幅広い町民が受検した。予想通りの成果」と話しました。

次回の秋の第4回語検では今回の目標だった40人の5倍、200人を目標にすそ野を広げたいとしています。

また、語検の協賛会社である時事通信社でも、昨年につき東京や大阪などに別れて、今春の新入社員33人が2級を受検。「問題集より難しかった」「四字熟語がよく分からなかった」「思ったよりやさしかった」などと、さまざまな反応でした。

◇第4回「語検」は11月に予定

第3回目の検定は、準会場受検が11月7日（金）と9日（日）、一般会場受検が9日（日）にそれぞれ予定されています。受付開始は8月1日からです。